

1 派遣期日 平成22年11月12日(金)

2 研修先 学校名 東京学芸大学附属世田谷小学校  
所在地 東京都世田谷区深沢4-10-1  
<http://www.setagaya-es.u-gakugei.ac.jp/>

3 研修内容

平成22年度・第1回「授業研究会」～学び続ける共同体としての学校の創造～

(1) 第1学年総合学習(算数的内容)授業参観及び研究協議

① 授業の概略

- 単元名 「ひきざんカードはぜんぶある？」 指導者 田中 義久 先生
- 授業の主張

繰り下がりのある引き算のカードを、あるきまりに基づいて並べていく授業である。これまでに活用してきた引き算カードが、全部あるかどうかを確認するために、児童は、並べてみればよいことに気付くであろう。この気付きをもとに自力解決を行い、どのような決まりに基づいて並べたのかを説明したり、友達の並べ方を見て、どのようなきまりで並べたのかも説明したりできることを期待する。このとき、友達の並べ方が自分の並べ方とは異なっている、その並び方にみられるきまりを見つけようとする、友達の考えを受け止め、理解しようとする態度を大切にする。

② 協議

- 子どもたちの集中力がすばらしかった。それを支える授業の組み立て、特に発問を中心とする教材研究の深さを感じられた。
- 1年生という発達段階を考えて、実際にカードをペアになって並ばせるなど、具体的な操作活動を取り入れたことは非常に有効であった。
- 話を聞く態度、発表の仕方など学習の訓練・しつけがよくできていた。普段の確かな学級経営が基盤となって本授業が展開されていた。

(2) 第5学年理科授業参観及び研究協議

① 授業の概略

- 単元名 「ふりこのきまりをみつけよう」 指導者 羽仁 克嘉 先生
- 授業の主張

実験・観察の結果に基づいて、自分なりの解釈を加えながら考察していくことは、科学的思考を高めるために重要である。実験から得られたデータを表や図を用いて合理的に処理しながら、一人ひとりが自らの発想を生かして問題を追求していく授業を目指す。

② 協議

- 子どもたちが協力して実験や実験結果の測定を行い、データを処理していく過程を大切にしていた。
- 子どもたちが測定した値の誤差を、子どもたちが納得できるように上手に処理していた。今回のように誤差を伴いやすい実験を行うときには、あらかじめ手立てを考えておく必要がある。

4 感想

- 学芸大附属小学校の先生方は、学習指導要領を熟知した上で、自分の思いを言葉で表現する機会をきちんと授業の中で確保していることを強く感じた。また、児童の発表内容から語彙力の豊さを強く感じた。読書活動などを積極的に推進している結果であると感じた。
- 一授業一協議会を前提とした研究会ということで、授業者が明確な研究目標のもと授業を展開していた。学校課題研究としての取り組みと平行して、毎年度、個人としてテーマを設定して授業研究を実践していくことは大変ではあるが、意義のあることだと感じた。